




特集 ◇図書館を知るための本  
TOPICS ◇学習会報告

## 特集 図書館を知るための本

### 本を読んで知る・使う・考える 図書館の今と未来



私たちが「図書館」と聞いてイメージするのは、まず、子どものころからこれまで自分が実際に利用した図書館だろう。または、ある年齢以上の多くの人たちにとっては「図書館なんてなかった」。幼いころの図書館像が固定したまま、「行かず嫌い」の人も多い。

しかし、この30年間で日本の公共図書館は、その数も飛躍的に増え、質的にも大きく変わったといわれる。また最近では、現在の日本の公共図書館の有り様に関して、様々な意見が新聞や雑誌でも大きく取り上げられるほど、論議をよんでいる。

ところで、「図書館は使うことでしか良くなり、使うことでしか変わらない」という言葉を御存知だろうか。図書館友の会けやきの活動の中で、なるほどと共感し、私たちの友の会活動の拠り所の一つでもある言葉である。

使い手の図書館像が貧しいものであれば、それなりのレベルの図書館にしかならないわけだ。そこで、会員の中から『利用者が、図書館について知り、「図書館に何を求めているのか、どんな図書館であってほしいのか」ということをしっかり考えて図書館を使うことが大事なのでは』という声があがり、まず手始めに目についた図書館についての本を持ち寄った。どれも京都市図書館が所蔵している本。最後の2冊は専門家向けのものだが、図書館の今と未来を考えるのに図書館員や研究者の視点が参考になる。

私たちが求める図書館について示唆してくれる本はまだまだいっぱいあると思う。読者のみなさん、教えて下さい。今後けやきで紹介して行きたいと思っています。なにより、司書さんに教えてもらいに図書館へ行こう。

(永井)


図書館を使いこなすために、そしてどんな図書館であってほしいかを考えるために、図書館について書かれた本を読んでみませんか？けやきが読んだ8冊の本を紹介します。

#### ◇図書館を使いこなす◇

##### 図書館へ行こう 田中共子著 岩波ジュニア新書 2003

2時間もあれば読んでしまえるジュニア向けに書かれた図書館入門書です。六つの章にわたって図書館についてわかりやすく書かれています。

まず「町の図書館を探検しよう」では図書館を細かく見ていきます。あらためて図書館はどんなところだろう、と学ぶことが出来ます。次に「本を読むということ」では本を楽しく読む本選びのポイントとして、自分にあった本、自分に近い語り手や主人公の話、今興味のあることが書かれている本を選ぶ、という3つのことがあげられています。苦手な読書感想文を気楽にかける方法もわかりやすく書かれています。



また「図書館を使いこなそう」ではお菓子作りの大好きな女の子の図書館での1冊の本との出会いから広がりまでを具体的に書いています。進路を考えることにも図書館の資料が大いに役立つことがわかります。

その他にも、本屋さん図書館の違い、ベストセラーとロングセラー、公共図書館のネットワーク、全国のユニークな図書館の紹介、図書館の仕事の内容、図書館員になる方法など様々な分野について書かれています。

人類が積み上げてきた知の財産である本に触れ、

知性と感性を輝かせてほしいと願う司書さんのメッセージがこめられている本です。読み終えた後は図書館に行きたくなります。(明石)

## 図書館であそぼう

辻由美著 講談社現代新書 1999

この本は、散歩道で見つけた花の名を求めて、著者が地元の市立図書館から、ついにはフランスの自然誌図書館で花の名の由来と命名者にたどりつくというスケールの大きな話から始まる。

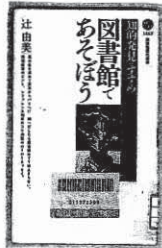
私が一番興味をもったのは「図書館のレファレンス・サービス」という章だった。「現代の公共図書館は、ありとあらゆる質問が舞い込んでくる場である。来館して質問する人もいれば、電話で質問する人もいる。それに答えるサービスはレファレンス・サービスと呼ばれており…ある程度以上の規模の図書館なら、どこでもレファレンス・サービス担当の職員がいる。」また「図書館という情報源とその情報を必要としている人との橋渡しをし、あなたのさがしている情報はこれですよ。ここにありますよ。などと教えてくれるのがレファレンス・サービスなのである。」と。なるほど。

その質問は次のように分類されるという。

- 1 こんな本をさがしているのだが。
- 2 こういうテーマについてどういう文献があるか。
- 3 これこれの事実を知りたい。

そして「日常生活に問題をかかえたとき、そうであそこに行けば情報が得られる、と誰もが気軽に足をこぶことのできる場所、公共図書館はそんな場所でなければならないのである」と。

この本を読んで、図書館は本を借りる所というイメージが大きく変わり、何か疑問や困ったことがあれば、近くの図書館へ行ってみようと思うようになった。図書館は無料でいつでも行ける、私達の強い味方なのだ。(橋本)



## まちの図書館でしらべる

「まちの図書館でしらべる」編集委員会編 柏書房 2002

「人間の知的好奇心がある限り、調べるといふ行為はなくなることはない。」この観点から、本書は何かを調べたいと思ったとき、日常生活に一番近くで、気軽に対応してくれるであろう施設の図書館を使い



こなす方法などを5章に分け、解説している。

第1章—ユーロって何など、15件の依頼をレファレンスサービス(図書館で資料、情報などを求める利用者に文献の紹介などの援助、参考調査業務)をした実例。

第2章—主に公共図書館はどんなところか、書店とはどう違うのか。

第3章—図書館員にはどうきくか、自分で調べる時のテクニックを教えてください。

第4章—公共図書館はどうつながっているか、ネットワークを利用して本を捜してみよう。

第5章—海外の7つの図書館の紹介と日本の図書館の現状。

日本中の図書館の棚に、書店にはないおもしろい本が並んでいるはず。すでに図書館を利用している方、まだ図書館デビューしていない方も、この本を参考に、積極的に図書館員にアタックして、あなたの知的好奇心を満たしてみたいはかがですか。(松本)

## ◇図書館への市民参加◇

### 図書館の明日をひらく

菅原峻著 晶文社 1999

私にとって図書館は大変身近な場所だが、「あなたにとって理想の図書館とは」と問われると何と答えるだろう。与えられる事を当然としていたことに愕然とし、イメージできない自分に気がつく。

本著では、アメリカにおける専門職としての司書育成システムの綿密さや、建築に於いても先進的な北欧の図書館を紹介して、日本の図書館との違いを示している。更に北欧の図書館は、社会の中で最も高いレベルの民主主義を体現していると、その理由を「近づきやすさと民主主義を根本とする誠実さである」とする。

著者は、先進的な図書館を研究し、日本の図書館建設の計画の段階から参加してきた経験から、現実的に「住民のための図書館」を建設するには、住民が図書館を知り、学び、そして自ら考え、判断し、行動することが大切であるという。その結果としてお年寄りや十代の子供達の居場所にもなり得、また百人いれば百人の思いが活かされている図書館ができると説いている。

まず図書館を知り、学ぶことから始め、共に語り合おう。私達の図書館をつくるために。(北園)



この特集で取り上げた本は京都市図書館にあります。  
なお「けやき」でも所蔵していますので、会員には貸出します。  
希望の方は事務局までご連絡下さい。



## ◇図書館の在り方、その現状と展望◇

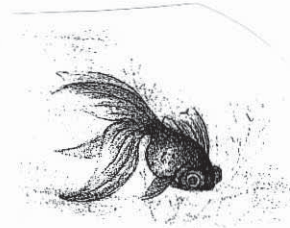
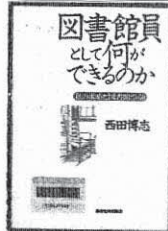
### 図書館員として何ができるのか

西田博志 教育史料出版会 1997

日頃、本好きの小学生の娘と一緒に図書館を利用することが多いのだが、何よりもうれしいのは、娘の些細な資料探しの質問にもカウンター内の職員の方々が笑顔で丁寧に応対して下さることである。

図書館サービスの基本は、住民一人一人に「力を尽くして仕えること」だと、この本の中で、西田博志さんは熱く語っておられる。西田さんは、滋賀県八日市市の図書館を住民と一緒に作り上げていく過程で、利用者の資料要求には、草の根分けても必ず応えようという真摯な姿勢を貫き、人口4万人の小さな町で年間貸出冊数43万冊を記録されたという。

「貸出」という一見何でもないように思えるこのサービスは、市民と図書館の間に信頼関係を生み、それは「文化創造の拠点」としての図書館へと発展していくという…。ナント奥深い！西田さんの図書館員生活35年の記録は、戦後、日本の公共図書館が歩んできた道にも通じている。水道やゴミ処理がないと困るように「図書館がなくては生活できない」そんな図書館を市民で作っていきたくなる気にさせられる。(余田)



次に「デジタルデバイドを解消する図書館」(小野田美都江著)ではITの活用能力の差で不利益を被るデジタルデバイドの問題について、図書館がそれを解消する可能性を示す。

また「『市民の図書館』から『市民活動の図書館へ』」で著者の松本功氏は、戦後の日本の公共図書館の在り方をたどり、その先に、市民をはぐくむ拠点としての市民活動の図書館を提案。これは「情報を蓄積し、整理し、ナビゲーションすることで市民の力・活動を下支えすること」という。その実践の端緒について秋田県立図書館の事例が「ラーメン屋さんから石屋さんまで『ビジネス』を助ける図書館はじめの一步」(山崎博樹著)で語られる。

身近な図書館が様々な市民の活動を支える場となることを願う。(島崎)

### 座談会 図書館バッシングに反論

「ず・ぼん-図書館とメディアの本 8」

ポット出版 2002

### 進化する図書館へ

進化する図書館の会編 ひつじ書房

2001

身の回りに、フリーの立場で仕事を始める人達がいる。共通の悩みは資料・情報の入手、自宅では企業並の情報機器が揃えられないこと。この「進化する図書館へ」の4つの論考は、公共図書館がそんな人達に光明となる可能性を示している。仕事ばかりではない。市民活動に対しても「進化する図書館」は支えとなるという。—「けやき」の活動も市民活動だ。

まず「進化するニューヨークの公共図書館」でその先進例が紹介される。大口寄付に支えられるこの図書館では、誰でも膨大な資料に触れることができ、また執筆の便宜やコンピュータの無料利用も(電子メールによる発信も)可能である。ビジネス用のデータベース、マスメディアに残らない芸術の資料などその収集も膨大。それを利用する無名の市民の夢の「『孵卵器』としての役割をはたし…アメリカを代表するビジネス、文化・芸術が数多く巣立っている」という。著者の菅谷明子氏は、日本でも組織に属さない個人がその力を発揮できるよう、サポートする「知的インフラ」としての図書館を提唱している。



読みたい本が図書館に行けばある、というのは利用者にとってとても有り難いことです。でも、新刊ベストセラーは貸出中のことが多いので、たくさんあればいいのに、と思われたことはありませんか？

今、公立図書館が新刊本を複数購入し貸出すことによって書店の売り上げ減、作家の印税収入減の要因の一つとなっていると出版社・著作権者からやり玉にあげられています。この複本問題に対し、四人の東京都の現図書館員が「本が売れない原因を図書館のせいにするな」と感情をぶちまけながら、職場である四図書館の購入・貸出実績に基づいて、反論を試みているのがこの座談会です。

興味深いのは、議論の中で語られる新刊購入の実態です。図書館の予算に始まって、図書購入費、人件費、選本の基準・方法。そして問題の複本の全蔵書に占める割合。本の利用回数等。普段目にしない具体的な数字の中に図書館の姿が見えてきます。

実態が見えてくると問題点も見えてきます。利用者の要望に添って運営されてきた公共図書館がこの複本問題に対応を迫られるとき、それは同時に利用者にも問いが向けられていることになります。



利用者の求める図書館像が明確でないと、対応の方法も見つけれないのではないかしら。情報の発信地としての図書館が、単に利用者が読みたい本があるだけでよいのか。地域資料はどうするのか。IT時代の図書館はどうあるべきなのか（う～ん。むずかしい！）。この座談会は利用者によくの問いを投げかけて来ます。  
(吉政)

### 情報基盤としての図書館

根元彰著 勁草書房 2002

21世紀の日本社会における公共図書館の使命・任務を、一図書館研究者の視点で提起した本。

著者は、日本の図書館の歴史を見渡し、日本とアメリカの公共図書館を比較・分析するなかで、「公共図書館とは何か」を考え、「日本の図書館をとりまく歴史的な環境の特質」をあきらかにしていく。

たとえば、日本の出版流通機構の特質やその社会情勢に対応しての歴史的変貌について触れ、さらに第2次大戦後の日本の公共図書館の歴史を批判的に分析する。司書という資格や図書館の制度的位置づけの歴史について書き、従来非常に評価されてきた1970年代以降の日本の公共図書館の成長期を失敗として否定的に語るくだりは、もちろん異論はあるとして、新鮮である。また、アメリカの図書館を理解する鍵の一つとして、図書館とアメリカ資本主義



との関係についても述べている。あのカーネギーやビル・ゲイツの多額の寄付による公共図書館支援に込められている意味は？

このような分析作業は、今話題の公共図書館と出版界との摩擦の、そもそもの由来と解決策とを、著者なりに模索する過程でもある。

そして、そのなかで見えてきた図書館のめざすべき姿として、「これからの図書館は情報ストックを基にしたサービスを展開すべきである」と著者は提案する。今後の公共図書館の活路を、プロフェッショナルな人的サービスに見い出しているところが、非常に興味深い。つまり、レファレンス・サービスの重視、そのための地域資料や自前の資料の蓄積、さらに個性をもった資料構成などの必要性を強調している。

本書には、図書館サービスのスタイルが異なる2つのアメリカの図書館の記録もある。著者が長期にわたって滞在し調査しただけに、具体的で詳しく、図書館友の会など利用者や図書館の関わりもでてくる。

なお付論として巻末に「図書館を理解するための本」が20数冊紹介されている。専門書が多いが、「図書館を知るために」ぜひ読んでみませんか。

(永井)



## けやきの本棚 13

わたしの  
おすすめの本

### 天使突破一丁目

―着物と自転車と

通崎睦美 淡交社 02年  
通崎睦美さんと言えばマリ  
ンバ奏者として、またアン  
ティーク着物のニューリーダ  
ーとして有名ですが、この本は  
彼女の細やかな美意識と豊  
かな日常生活を綴ったエッセ  
イ集です。さらに大胆かつ個  
性的な昭和初期の着物姿の写  
真はどれも京都の街並みにと  
け込み、魅力的です。じつと  
暮らすと見えてくる京都の美  
しさを語った一冊です。  
(会員T・松ヶ崎)



### 鉄道廃線跡の旅

宮脇俊三著 角川文庫

初めての土地、迎えの車の  
助手席に座る。走る道のゆる  
やかなカーブ、なだらかな  
アップダウン、そして他の道  
との不自然な交わり方。「こ  
の道、昔は汽車が電車が走っ  
ていたのでは。」と聞くと驚  
く運転者。そんな道が京都に  
も。嵯峨から清滝へのトンネ  
ル道。深草から山科への名神  
沿い。初夏の一日、歴史の痕  
跡をたどる旅へ誘う一冊。  
(会員神谷潔・下嶋)

### 新編 異さんから

メッセー  
ジ

四月に松井館長補佐が左  
京図書館に来られました。左  
松井氏よりけやきにメッセ  
ージをいただきました。

四月一日付けで、左京図  
書館にお世話になることにな  
りました。どうぞよろしく  
お願いいたします。

### 科学する野球全8巻

村上豊著 ベースボールマガ  
ジン社 84年他

「野球は運動であるから、物  
理に支配されている。この物  
理の尺度に照らし合わせれば  
いままで常識とされていた技  
術理論のウソが明らかにな  
る」をテーマに常識のウソを  
徹底説明しています。野球経  
験者は「目から鱗」状態にな  
る本です。指導者もプレーヤ  
ーもこの「ウソ」を見抜い  
て、技術の向上を。館長のお  
勧めです。  
(増田邦雄左京図書館館長)

### 左京図書館に勤務して驚

いたことは、利用者数が多  
いこと、子どもからお年寄  
りまで幅広い層に利用され  
ていることなどです。  
今後益々発展できるよ  
う、精一杯頑張りますの  
で、よろしく願っています。  
(左京図書館館長補佐  
松井哲郎)

## 市民とともに作る図書館を めざして



もえ  
茨木中央図書館友の会代表 福山恭子さんを迎えて学習会

2003年6月9日  
於：3階大会議室

図書館友の会けやきが発足して5年。この活動を始めに  
あたって、ヒントを得たのが茨木中央図書館友の会萌の活動  
です。日本の図書館友の会活動の先駆的存在である萌で、設  
立以来中心メンバーとして活躍されている福山恭子さんを迎  
え、念願の学習会を開催しました。会員の他、京都市の図書  
館員や図書館に関心のある市民など30名の参加がありました。

### 学習会報告

萌の設立は1993年。その前年に、約10年の市民運動  
を経て、茨木中央図書館が開館し、その折市長が「こ  
の図書館は市民の手で作られた」と挨拶されたといひ  
ます。そこからさらに福山さんたちは、本当に市民が  
図書館を作っていくのはこれからだ、FRIENDといわ  
れる関係をと、自分たちで友の会を作られたそうで  
す。

その前にアメリカの図書館を見に行かれた時、専門  
職（司書）の自信と誇りに驚き、また友の会の人々が  
自分達が図書館を支えているパトロンである、と大変  
誇りしていることに学ばれたといひます。

萌の会員になる条件は「図書館が大好きな人、それ  
だけです」。呼びかけのポスターやパンフレットを見  
て図書館のサポーターになろうと自主的に集まった会  
員は会費を払い、図書館について学びつつ活動を始め  
る。人に友人が必要なように、図書館にも友人が必要  
という立場の萌は、施設とボランティアが主従の関係  
になりがちな行政が集めるボランティア活動とは違  
う、とのこと。義理で入会するような誘い方をしてい  
ないので、会員は出たり入ったりで常に50人ほど、し  
かし「数はあまり問題ではない。市民と図書館の橋渡  
しをしようという萌の目的をわかって入会してもら  
うことが大切」というお話に大変教えられました。

萌の活動の基本は「専門職としての司書が力を発揮  
できるように支える。市民として何が出来るかを図書  
館と協働で考える」ということ。司書の仕事の領域を  
犯さず、市民の分をわきまえながら図書館をサポート  
することに心を配った活動だそうですが、職員から理  
解を得られるには5年かかったといひます。しかし、

図書館の手伝いというより、自分たちが支えていると  
いう気持ちで続ける活動の中から、図書館の仕事のど  
こをサポートすればよいかわかって来、また図書館も  
提案を受け入れるという関係が出来たとのこと。利用  
者の視点を図書館サービスに役立てられることは友の  
会活動ならではの感じました。

図書館は使う人によってしかよくなるらないという観  
点から、図書館と市民の橋渡しとして、図書館行事へ  
の参加、PR、協力をし、また自主講座で講演会等も  
開催。廃棄本のリサイクルを提案して、その運営のサ  
ポートもされています。

自主講座では図書館に来たついでにふらっと入れる  
よさがあり、また地元の講師が講演をきっかけに会員  
になって、輪が広がる事もあるとか。これはけやきも  
感じているところです。

活動の中で、図書館が市民のものとなるために、あ  
ることをしたら、次にどうつながるか、ということ  
を考えて計画をしておられるとのこと。自らの友の会  
を模索しているけやきにとって、示唆に富むお話でし  
た。また自主的に設立し、運営する友の会であるとい  
う、萌とけやきの共通点を誇らしくも思いました。

### 学習会の感想から

- ・図書館が本当に市民にとってどういうものであらねば  
ならないか、もう一度一から学んで見ようと思います。
- ・図書館と良い関係を持つために5年かかられたことを  
お聞きし、私もまだまだ頑張りが足りないことを実感し  
ています。会員数が問題ではない、目的を知って入会し  
てもらおうことの大切さを教えていただきました。
- ・図書館を支える、または活動を活性化する側として図  
書館とボランティアで行うことのはっきりとした線がよ  
くわかって良かった。元気が出ました。
- ・友の会の可能性を教えて頂き、今回友の会（けやき）  
に入会したことをうれしく思っています。
- ・「良いボランティア活動は図書館を成熟させる」とい  
う塩見先生の言葉を教えて頂き、心に残りました。

行事



4月26日 絵本コーナーの飾りをつくる会と 工作会

けやきの活動 2月～6月 ('03)

- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 2/5 図書館絵本コーナーの飾り、和紙で作ったおひなさま作成 (五人囃子を追加) | 5/24 図書館おたのしみ会                      |
| 2/22 図書館お楽しみ会                            | 5/31 映画上映会                          |
| 2/24 ニュースレターNo.12印刷・発送                   | 6/月上旬～ ニュースレターNo.13 編集              |
| 3/22 図書館おたのしみ会                           | 6/9 定期総会<br>学習会 講師-福山恭子さん           |
| 4/23.26 子ども読書の日記念<br>おたのしみ会・工作会          | ※・図書館主催行事は、協力<br>・毎月第一月曜日に<br>事務局会議 |
| 4/26 絵本コーナーの飾りをつくる会                      | 図書館とのミーティング                         |

けやき情報板

総会が開かれました

6月9日、学習会に先立って、2003年度けやき総会を開催。前年度の報告に基づき、今後の活動について話し合いました。詳細は会員に配布の総会報告で。

東大路・川端通りに

図書館の案内標識設置

長いあいだ要望していたものです。東鞍馬口通りとの交差点に設置されました。

増田館長が図書館について

個人HP立ち上げ

手作りのホームページには左京図書館長の図書館への思いが詰まっています。URL<http://www11.ocn.ne.jp/~masdak/>。左京図書館の公式HPも早くできるといいですね。HP中の「よくある質問Q&A」は印刷され図書館内で配布されています。

読者の声を!

ニュースレター「けやき」へのご意見ご感想をお寄せください。また「けやきの本棚」などへの投稿もお待ちしています。(なお掲載についてはけやき編集部判断におまかせください。)

図書館友の会けやきの仲間になりませんか

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい  
そんな私たちの望みをかなえ、  
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。  
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと「けやき」を作りました。図書館のスタッフとともに、左京図書館を支え、育てていきたいのです。

こんな活動をしています 一緒にしましょう

図書館で、子どもたちに絵本を読んだり、おはなしなども。  
紙芝居やパネルシアターなどの製作。  
映画上映会など左京図書館の催しに協力したり、  
「けやき」のテープ録音や、絵本コーナーの壁面を飾る作品を作ったり。  
図書館の現状を調べたり、提案も。ニュースレター「けやき」を発行。  
ぜひあなたの思いを形にして

図書館友の会「けやき」の仲間になってください。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方  
TEL/FAX 075-721-2625

郵便振込口座 口座番号 00920-8-156914番  
口座名称 図書館友の会 けやき

年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接または上記の振込口座をご利用ください。

編集後記

▽図書館友の会は文字通り図書館と友人なんだと考えるとよいですね。相手のことを考える友人だから時には苦言もいうけれど、必要と思えば手を貸して、一緒に考えたり、とがよい結果を生むととても楽しい。市民と図書館が互いの得意な力を出し合っているのだと思います。(き)

▽学習会には地元左京や京都市内、府下の他市や滋賀県からも意欲的な市民の参加があり、図書館側からも左京図書館長や中央図書館の職員さん3人が講演に熱心に耳を傾けて下さいました。福山さんのお話からは、福山さんの熱気から、いろいろな元気をいただきました。ありがとうございました。

◇けやき 第13号 2003年6月13日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字 高野のYさん タイトルバック 岩倉のSさん  
カット 高野のHさん 下鴨のKさん 田中のTさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方  
TEL/FAX 075-721-2625